

第5章 生活

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりに関心をもち，自分自身や自分の生活について考えさせるとともに，その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ，自立への基礎を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な環境や自分自身に関心をもち，進んでそれらとかかわり，楽しく学習や生活をしようとする。	具体的な活動や体験について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現する。	具体的な活動や体験をしながら，自分と身近な人，社会，自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

生活科においては，学習指導要領の内容の(1)学校と生活，(2)家庭と生活，(3)地域と生活，(4)公共物や公共施設の利用，(5)季節の変化と生活，(6)自然や物を使った遊び，(7)動植物の飼育・栽培，(8)自分の成長の8項目の内容のまとめりごとに評価規準を作成した。

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

第1学年及び第2学年

1 学年目標

- (1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所，公共物などのかかわりに関心をもち，それらに愛着をもつことができるようにするとともに，集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え，適切に行動できるようにする。
- (2) 自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心をもち，自然を大切にしたり，自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。
- (3) 身近な人々，社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに，それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉，絵，動作，劇化などにより表現できるようにする。

2 第1学年及び第2学年の評価の観点の趣旨

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な人，社会，自然及び自分自身に関心をもち，進んでそれらとかかわり，楽しく学習したり，意欲的に遊びや手伝いなどをしたりしようとする。	調べたり，育てたり，作ったりするなどの活動や学校や家庭などにおける自分の生活について，自分なりに考えたり，工夫したりして，それをすなおに表現する。	具体的な活動や体験をしながら，学校や家庭及び地域と生活，公共物の利用，身近な自然や動植物，自分の成長などの様子に気付いている。

3 学習指導要領の内容,内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「学校と生活」

【学習指導要領の内容】

学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり，楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに，通学路の様子などに関心をもち，安全な登下校ができるようにする。

【「学校と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き

学校の施設，学校生活を支えている人々や友達及び通学路の様子などに関心を持ち，楽しく学校生活を送ろうとしている。	楽しく安心して遊びや生活及び登下校ができるように工夫するとともに，学校生活の楽しさを身近な人に伝えることができる。	学校の施設，学校生活を支えている人や友達及び通学路の様子などが分かっている。
---	---	--

【「学校と生活」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> 学校の施設，先生や友達などに関心をもってかかわろうとしている。 思いや願いをもって動物とかかわったり，友達といろいろな施設を利用して遊んだりしようとしている。 めあてを新たにしながら，学校の施設や人々と繰り返しかかわろうとしている。 通学路の様子に関心をもって歩いたり，調べたり，観察したりなどしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりやマナーを守り，施設や遊具を利用して楽しく遊びや生活ができる。 分からないことがあったときなど，気軽に周りの人に聞くことができる。 自分が見たり聞いたりしたことを先生や友達及び家の人などに伝えることができる。 通行の仕方を考えるなどして安全な登下校ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校にあるものを利用して遊ぶ楽しさが分かっている。 友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する楽しさが分かっている。 病気やけがのときに世話してくれる人など，自分たちの学校生活を支えてくれる人々がいることが分かっている。 気持ちよく安全に生活するためのきまりやマナーがあることに気付いている。 通学路の動植物や自然，出会う人，危険な箇所，安全を守る施設や人々のいることに気付いている。

(2)「家庭と生活」

【学習指導要領の内容】

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え，自分の役割を積極的に果たすとともに，規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

【「家庭と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
家庭生活に関心を持ち，自分の役割を積極的に果たそうとするとともに，規則正しく健康に気を付けて生活しようとする。	家庭生活を支えている家族のことや，自分でできることなどについて考え，それを表現することができる。	家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに気付いている。

【「家庭と生活」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> 家族のことや家庭での自分の生活に目を向けようとしている。 お手伝いなど自分でできることは自分でしようとしている。 家族の一員として，自分でできることを継続的に行おうとしている。 健康に気を付け，生活リズムを大切に生活しようとして 	<ul style="list-style-type: none"> 家族とともにしていることや家族にしてもらっていることを振り返ることができる。 自分でできることなどについて考えることができる。 家族が喜ぶことを見つけたり，家庭が楽しくなることを工夫したりできる。 家族のことや自分でできるこ 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭の温かさや家族の大切さを感じている。 家計を支える仕事，家事に関する仕事，家族の団らんなど家族のことに気付いている。 家庭において自分でできることが分かっている。 自分でできることを進んですることが大切なことに気付い

いる。	となどについて話したり聞いたりすることができる。	ている。
-----	--------------------------	------

(3)「地域と生活」

【学習指導要領の内容】

自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみを持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

【「地域と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げようとしている。	地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考え、それを表現することができる。	自分たちの生活は、地域の人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かっている。

【「地域と生活」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をしたり話しかけたりするなど、地域の人々に進んでかかわろうとしている。 めあてを新たにしながら、近くの店や野原などに行こうとしている。 地域の人々や様々な場所とかかわることを楽しもうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児や高齢者など、相手に応じて接し方を考えることができる。 用件を正しく伝えて買い物などをすることができる。 安全な遊び方や場所の使い方について工夫することができる。 その場の状況をとらえ、危険などを予測して行動できる。 好きな場所や親しくなった人々などのことを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域には親しくなった人や好きになった場所などがあることが分かっている。 愛着のある場所が増えたり人と上手に接したりできるようになったことに気付いている。 地域の人々や様々な場所などとかかわって生活すると楽しいことに気付いている。

(4)「公共物や公共施設の利用」

【学習指導要領の内容】

公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。

【「公共物や公共施設の利用」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
公共物や公共施設を大切に利用しようとしている。	公共物や公共施設の利用の仕方について考えたり、工夫したりして、安全に気を付けて正しく利用することができる。	公共物や公共施設はみんなのものであることや、それを支えている人々がいることが分かっている。

【「公共物や公共施設の利用」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> ・公共物や公共施設に関心をもって利用しようとしている。 ・公共施設で働く人やそれを利用する人と親しみをもってかかわろうとしている。 ・みんなのことを考えて利用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく使うための利用の仕方について考えたり、工夫したりすることができる。 ・ル-ルやマナ-を考慮して利用することができる。 ・公共物や公共施設を利用したことや利用して楽しかったことなどを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りには、みんなで使う物やみんなのための施設があることが分かっている。 ・公共施設にはそれを支えている人々がいることが分かっている。 ・公共物や公共施設を利用すると、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付いている。

(5)「季節の変化と生活」

【学習指導要領の内容】

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

【「季節の変化と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<p>身近な自然を観察したり季節や地域の行事にかかわる活動をししようとしている。</p>	<p>四季の変化や季節に応じて、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。</p>	<p>四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心している。</p>

【「季節の変化と生活」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> ・進んで野外に出かけ、自然を楽しもうとしている。 ・季節や地域の行事に関心を持ち、見たり参加したりしようとしている。 ・体全体を使って、自然のよさを感じとろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節にあった遊びや楽しむ会を考えることができる。 ・季節を楽しむ会を計画し、行うことができる。 ・季節の花を飾ったり収穫の喜びを表したりするなど、自然や季節にかかわる楽しみ方を工夫することができる。 ・観察したことや参加して分かったこと、楽しかったことなどを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には季節にちなんだ様々な行事があることに気付いている。 ・季節によって自分たちの遊びや生活、町の様子などが変わることに関心している。 ・季節に合った遊びをしたり行事に参加したりすると生活が楽しくなることに気付いている。

(6)「自然や物を使った遊び」

【学習指導要領の内容】

身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

【「自然や物を使った遊び」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
いろいろな遊びに関心を持ち、楽しく遊ぼうとしている。	身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。	身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊べることや、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。

【自然や物を使った遊び」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの自然や身近にある物、昔からある遊びなどに目を向けて遊ぼうとしている。 みんなと一緒に遊ぼうとしている。 自然や物と一体になり、夢中になって遊ぼうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や物、場所などの特徴や状況を生かして遊ぶことができる。 遊び方や約束を変えながら楽しい遊びをつくり出すことができる。 競い合ったり力を合わせたりして遊ぶことができる。 工夫して作ったり協力して遊んだりしたことや楽しかったことなどを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然や物を使うなどして作ったり遊んだりすると楽しいことに気付いている。 約束やルールがあると楽しく遊べるのが分かっている。 遊びを通して、友達のよさや自分との違いなどに気付いている。 安全な道具の使い方や遊び方が分かっている。

(7)「動植物の飼育・栽培」

【学習指導要領の内容】

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみを持ち、大切にすることができるようにする。

【「動植物の飼育・栽培」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
生き物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しんだり大切にしたりしようとしている。	工夫して動物を飼ったり植物を育てたりするとともに、世話をしたことや生き物のことなどについて表現することができる。	動植物は生命をもっていることや成長していること、動植物の世話の仕方などに気付いている。

【「動植物の飼育・栽培」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> 生き物を探したり、採ったり、育てたりしようとしている。 育てている動植物の成長を楽しみにしながら世話を続けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 変化や成長の様子に合わせて水や餌、肥料をやるなど、世話の仕方を考えることができる。 自然の中ではどのような状態 	<ul style="list-style-type: none"> 育てている動植物の成長や変化の様子に気付いている。 育てている動植物に合った世話の仕方があることに気付いている。

<ul style="list-style-type: none"> ・触ったり，抱いたり，水や餌，肥料をやったりなどして親しく接しようとしている。 	<p>にあったか調べたり，動植物の好む環境を作ったりなどして，適切にかかわることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話の工夫や世話をして感じたこと，生き物の様子や成長への期待などを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生や成長を喜んだり死を悲しんだりすることを通して，動植物も生命をもっていることが分かっている。 ・生き物への親しみが増し，上手に世話ができるようになったことに気付いている。
---	---	---

(8)「自分の成長」

【学習指導要領の内容】

多くの人の支えにより自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かり，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活することができるようにする。

【「自分の成長」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
自分の成長に関心をもち，これまでの成長を振り返ったり，これからの成長への願いをもって意欲的に生活したりしようとしている。	工夫して自分の成長を振り返るとともに，分かったことや成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちなどを表現することができる。	大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かり，これまでの生活や成長を支えてくれた多くの人々がいることに気付いている。

【「自分の成長」の評価規準の具体例】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったことなどに関心をもち，進んで調べようとしている。 ・これまでの生活や成長の様子を知るための手掛かりを探そうとしている。 ・自分のよさや得意なことに自信をもち，具体的な願いや夢をもって生活しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物や話などを手掛かりとしながら，自分の成長を知ることができる。 ・様々な手掛かりをもとにして，過去の自分と現在の自分を比較することができる。 ・成長の喜びや感謝の気持ち，これからの成長への願いなどを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が大きくなったこと，自分でできるようになったこと，役割が増えたことなどを実感している。 ・自分の成長について，喜んだり励ましたりしてくれた多くの人々がいることに気付いている。 ・これからも成長できることや成長への願いや夢があることに気付いている。

第3 単元の評価に関する事例

ここでは、内容(5)「季節の変化と生活」及び内容(6)「自然や物を使った遊び」に関する第1学年の事例を取り上げ、「観点別評価の進め方」における工夫を2つの例で紹介する。すなわち、単元名「あきとともだち」「1単元の目標」「2単元の評価規準」「3指導と評価の計画」までは共通とし、「4観点別評価の進め方」のところで、特に「(1)評価資料の収集」の違いを、例1と例2とに分けて紹介するようにしている。

例1では「文章メモを中心に評価資料を収集し、単元のまとめをする例」を紹介している。ここでは日常的な記録簿に児童の学習状況を文章で記述するようにし、単元の終了後、その記録を資料にしなが、当初立てた「単元の評価規準」や「指導と評価の計画」に照らして、目標の実現状況を判断し、単元の評価をする工夫を示した。

例2では、「チェックリストで評価資料を収集し、単元のまとめをする例」を紹介している。ここでは例1と違って、「評価と指導の計画」に照らして作成したチェックリストに学習の状況を記録し、単元の終了後、その記録を資料にしなが、当初立てた「単元の評価規準」に照らして、目標の実現状況を判断し、単元の評価をする工夫を示した。

なお、例1及び例2とも、評価規準は「おおむね満足できる状況」を示している。

事例

単元名 「あきとともだち」(20時間)

第1学年 10・11月

<本校の特色>

本校では学校の近くに生活科の学習の場や対象に適した公園があることから「こうえんとなかよし」という第1学年の年間テーマを設定し、1年間を通して公園とかかわって活動する単元(102時間中の40時間)を次のように設定している。

1学期「あそびにいこうよ」(12時間) 6・7月

2学期「あきとともだち」(20時間) 10・11月

小単元1「こうていのあきをさがそう」(5時間)

小単元2「あきのこうえんとなかよし」(12時間)

小単元3「あきをとどけよう」(3時間)

3学期「ふゆとあそぼう」(8時間) 1・2月

1 単元の目標

夏の公園の様子と比べたり、秋を見つけたりして遊びながら、季節によって自分たちの遊びや生活が変わることに気付くことができる。

秋の校庭や水城公園にある自然物などを使って遊ぶものを作ったり、遊び方を工夫したりして、みんなで楽しく遊ぶことができる。

2 単元の評価規準

本事例では、単元の評価規準をさらに学習活動のまとまりごとに細分化した学習活動における具体的評価規準を設定しているが、その学習活動のまとまりについては小単元ごとに設定した。以下「小単元の評価規準」という。

[内容(5)季節の変化と生活・内容(6)自然や物を使った遊び]

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
内容のまとまりごとの評価規準	身近な自然を観察したり季節や地域の行事にかかわる活動をしようとしている。 [内容(5)]	四季の変化や季節に応じて、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。 [内容(5)]	四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに気付いている。 [内容(5)]
	いろいろな遊びに関心を持ち、楽しく遊ぼうとしている。 [内容(6)]	身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。 [内容(6)]	身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊べることや、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。 [内容(6)]
単元の評価規準	秋の校庭や水城公園の自然、夏との違いに関心を持ち、季節に合った遊びを楽しもうと	校庭や水城公園の自然物を使って作ったり、遊び方を工夫したりしてみんなで楽しむとともに	身近な自然や友達とかかわって遊ぶことを通して、みんなで遊ぶことの楽しさや、自然

	している。	に、遊びの楽しさや秋の楽しみ方を表現できる。	や生活に見られる季節の変化に気付いている。
学習活動（小単元）における具体の評価規準	校庭の秋に関心をもち、木の葉や実、草、虫などを探そうとしている。公園の秋やそこでの遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。 自然物を使って飾りや遊ぶ物、手紙や絵本などを作ろうとしている。	校庭の秋を探したり、見つけた秋を絵や文に表したりすることができる。公園の自然物を使って遊ぶ物を作ったり、遊び方を工夫したりして、みんなと楽しく遊ぶことができる。見つけた秋や遊びの工夫、遊びの楽しさなどを、手紙や絵本などに表して伝えることができる。	校庭の秋の様子や、季節の変化、自然物で遊ぶ楽しさに気付いている。公園の秋の様子や季節の変化、公園の自然を利用してみんなと遊ぶ楽しさに気付いている。季節の変化を生活に取り入れる楽しさや、自分や友達の表現のよさに気付いている。

3 指導と評価の計画

表中「評価の視点」とあるのは、児童の学習状況にかかわる資料を収集する際の視点であり、小単元における具体の評価規準に即して、児童のどのような活動の様子を見ればよいかを考えて、児童の具体的な活動の姿が分かるように表現を工夫している。小単元における具体の評価規準に対して「評価の視点」を複数設けたものがあるのは、児童の活動を多面的にとらえるためである。評価の視点は、「おおむね満足できる」状況を示している。「日常場面」は、生活科の学習が児童の日常生活と密接に関連することから設定されたもので、児童の学習状況にかかわる資料を収集する際の参考として活用するものである。

時間	「小単元名」 ねらい 学習活動	小単元における具体の評価規準との関係	評価 評価の視点（ ）評価方法（日）日常場面
5	「こうていのあきをさがそう」 校庭の秋に関心をもち、探したり遊んだりすることができる。 「ときめきの森」や「なかよしロード」で遊ぶ。木の葉や木の実などで遊んだり作ったりする。見つけた秋を絵や文に書く。	アの イの ウの	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ここでは5時間の中で、アの、イの、ウのを左の学習活動に即して評価する。</p> </div> <p>校庭の自然に目を向けて遊ぼうとしている。 （行動・対話） 校庭で見つけた自然物で遊んだり、作ったりする。 （行動・作品） 自然の様子が変わったことや、秋の自然とかがわって遊べることに気付いている。（作品・会話）</p>
	「あきのこうえんとなかよし」 公園の秋に関心をもち、探したり遊んだりすることができる。 自分のやりたい遊びを見つけて遊ぶ。 ・広場や築山、滝などの場を生かして遊ぶ。 ・木登り ・笹流し ・鬼ごっこ ・山滑り ・かくれんぼ等	アの	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ここでは12時間の中で、アの、イの、ウのを左の学習活動に即して評価する。</p> </div> <p>木登り・笹流し・鬼ごっこ・山滑り・かくれんぼ等、公園の自然環境を使って遊ぼうとしている。 （行動） 公園で使う道具などの、自分の遊びに合った持ち物の準備をしている。（行動・対話） 次の活動時間にやりたいことや遊びたいことがある。（カード・会話） みんなと一緒に遊ぼうとする。（行動・会話） （日）休み時間にも作っている。（行動・作品） （日）休み時間に公園での遊びを再現している。 （行動・会話）</p>

<p>1 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木の葉や実・虫等，公園の秋を探して遊ぶ。 ・見つけた秋や楽しかったこと，次の時間にやりたいことをカードに書く。 <p>それをさらに工夫させて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた自然物を使って遊んだり，遊ぶ物を作ったりする。 ・作った物で遊んだり，ゲームをしたりする。 ・見つけた秋や楽しかったことをカードに書く。 	<p>(日)休みの日や放課後にも公園に遊びに行く。 (日記・対話)</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>1 2 時間の中で，上記の評価の視点を使ってアの について評価していく。例えば，「みんなと一緒に遊ぼうとする」という評価の視点は12時間を通して大切にしたいものである。</p> <p>それに対して，最初の「木登り...」の視点はもちろんどの時間でも使用できるが，左の欄の学習活動の1つ目「自分のやりたい遊びを見つけて遊ぶ」の中で，特に大切にしたい視点である。</p> <p>このように，ここにあげた評価の視点については，本時の学習活動のねらいや内容に応じて使い分けていくようにすることが大切である。</p> <p>以下のイの ，ウの についても同様のことがいえる。</p> </div>
	<p>友達と遊びの情報交換をしたり，一緒に遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを紹介する。 ・ゲームの工夫をして，みんなで楽しく遊ぶ。 ・楽しい遊び方やおもちゃの作り方を教え合ったりする。 <p>友達と遊んで楽しかったことや，遊びの工夫，友達のよさなどをカードに書く。</p>	<p>イの</p> <p>公園の環境（池・滝・築山・木・木の実・生き物等）を生かしてどんな遊びができるか，考えたり試したりしている。（行動・つぶやき）</p> <p>見つけた自然物を遊びに使ったり，作ったりして遊んでいる。（行動・作品）</p> <p>新しい遊びやそのルールを考えたり，工夫したりして遊んでいる。（行動・会話・対話）</p> <p>友達と一緒に遊んだり，ルールを守って遊んだりして。（行動・会話）</p> <p>公園での約束や安全に気をつけて遊んでいる。 (行動・会話)</p> <p>(日)作った物を教室に飾ったり，家に持ち帰って遊んだりする。（行動・対話）</p> <p>(日)朝の会や帰りの会で楽しかったことを紹介する。（会話・日記）</p>	
		<p>ウの</p> <p>秋の公園の様子が春や夏とは違うことが分かっている。（対話・発見カード・日記）</p> <p>紅葉の美しさ，秋風の心地よさ，空が高いことなどに気付いている。</p> <p>(つぶやき・発見カード・日記)</p> <p>いろいろな木の実があることや，それを使って様々な遊びができることに気付いている。 (対話・発見カード)</p> <p>自然物を使って楽しく遊べることに気付いている (つぶやき・発見カード)</p> <p>約束やルールを守って遊ぶと楽しいことが分かっている。（会話・発見カード）</p> <p>約束やルールを変えたり工夫したりすると，遊びが楽しくなることに気付いている。 (会話・発見カード)</p> <p>秋の公園で遊ぶことやみんなと遊ぶことの楽しさに気付いている。（会話・発見カード・日記）</p> <p>(日)同じような遊びが，自分の家の近所でもできることに気付いている。（対話・日記）</p>	
	<p>「あきをとどけよう」</p> <p>秋の公園で遊んだことを振り返って楽しむことができる。</p>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ここでは3時間の中で，アの ，イの ，ウの を左の学習活動に即して評価する。</p> </div>

3	秋の公園で遊んだことを振り返る。 見つけた秋や遊んで楽しかったことを家族に知らせる。	アの	秋のよさや遊びの楽しさを、作品や絵・文に表わそうとしている。(作品・対話)
		イの	遊んだことを振り返り、秋のよさや遊んで楽しかったことを家族に伝えている。(作品・発表)
		ウの	秋のよさや秋とかかわって遊ぶ楽しさに気付いている。(作品・対話)

4 観点別評価の進め方

実際の評価に当たっては、日常的な記録簿やチェックリストを作成して評価の資料を収集し、これを基にして効果的な指導を展開していくとともに、単元ごとの評価のまとめをしていく。ここでは以下、例1と例2の2例を紹介するが、記録簿の形式や記録の方法は多様にあるのでさらに創意工夫をすることが望まれる。

記録に当たっては、例えば、1単位時間の中で、毎回全ての児童や全ての観点について見なければならぬという考えにとらわれて、表面的あるいは形式的・機械的な評価に終わってしまうという、いわゆる「評価のための評価」にならないよう留意する。

記録に当たっては、小単元の評価規準又は評価の視点を使って児童の顕著な学習状況とともに、児童のよさや進歩の状況などもメモしておくようにする。また、日常場面での姿、児童の次時への思い、児童への支援等についてもメモして指導と評価に生かすようにする。特に、小単元の評価規準又は評価の視点に照らして、「努力を要する(C)」状況と判断される児童については、指導の手だてや対応の仕方をその都度記述して、次の学習に生かすことができるようにする。

評価に当たっては、収集した資料から単元全体を通した学習状況を読み取り、それを単元の評価規準に示された「おおむね満足できる(B)」状況を基に、「十分満足できる(A)」「努力を要する(C)」を判断する。その際、特に(A)や(C)の理由や(C)と評価した児童への指導の手だてを記述する。ここで紹介する事例の他に、小単元ごとに実現状況をまとめ、それを集めて単元のまとめをする方法もあるが、その際、A、B、Cの数を数え上げるだけの形式的・機械的な評価に終わることのないようにする。

第1学年	あきともだち(20時間)		
小単元	あきのこうえんとなかよし(12時間)		
小単元における具体的評価規準	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
	アの 公園の秋やそこでの遊びに関心を持ち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。	イの 公園の自然物を使って遊ぶものを作ったり、遊び方を工夫したりして、みんなと楽しく遊ぶことができる。	ウの 公園の秋の様子や季節の変化、公園の自然を利用してみんなと遊ぶ楽しさに気付いている。

例1 文章メモを中心に評価資料を収集し単元のまとめをする例

(1) 評価資料の収集

行動観察(行動)、児童との対話(対話)、児童同士の会話の様子や内容(会話)、作品分析(作品)などの方法で、評価の視点を使って見取ったことを簡潔な文章でメモする。

自己評価や相互評価の結果についても、必要に応じて簡潔な文章でメモしておくようにする。

(関・意・態) 関心・意欲・態度 (思・表) 思考・表現 (気) 気付き

(支) 支援 (め) 児童の次時のめあて (自) 自己評価 (相) 相互評価

	児童の学習状況等	児童の学習状況等		児童の学習状況等
日時 児童	10月6日 1・2 /12	10月14日 3・4 /12		11月18日 11・12/12
1	・5分ほど鬼ごっこ、そ	・友達に誘われてドンク		・友達と作った画用紙の

	の後はぶらぶら。 (関・意・態) ・次も遊びが見つからないようならば、一緒に遊びを探す。(支)	リ捜し。 ・「大きいドングリを見つけたよ」 (関・意・態) ・コマを作りたい。 (め) ・コマ作りの道具 (支)		的を木の枝にしぼる。 ・ドングリの的当てゲームを始める。 (関・意・態) ・途中で千点の的を書き足して工夫。 (思・表)
2	・切り株の赤ちゃん見つけた。かわいい。気に入ったらしく、何度も座ったり登ったりしてジャンプ。 (関・意・態)			・6人で切り株を使って輪投げゲーム。距離を変えて得点に差をつけルールの工夫。 (思・表) ・投げ方のコツを友達に教える。 (関・意・態)(気)
3	・1学期に見つけたお気に入りの木で木登り。 (関・意・態) ・毛虫に刺される。「木がいじめた。前(夏)は(毛虫は)いなかったのに」(気) ・木と仲良くなりたい。 (め) ・日頃から花や木などの植物に関する関心が高い。(児童のよさ)			・ロープを結んでこぶを作り梯子にして木にしぼる。木登り屋だよ-友達を集めて木登りの仕方を教える。 (思・表) ・友達からおもしろいと賞賛される。(相) ・「ちゃんも頑張って登れるよになっよ」 (関・意・態)
4		・滝で笹舟流し「水が冷たくなったね」 (気) ・ドングリを探そう。 (め) ・同じ活動をしようとする児童を紹介(支)		・ドングリと木の葉でペンダントを作る。 (関・意・態) ・ドングリと木の葉をくっけるところがむずかしかったけど、できてうれしい。(自)

(2) 単元ごとの評価のまとめ

上記に掲げたような記録簿にメモしたことを資料にして、単元全体を通した児童の学習状況を読み取り、それを単元の評価規準に照らして実現状況の程度を判断し、単元の評価のまとめとする。

上記の記録簿のメモは、第2小単元「あきのこうえんとなかよし」の一部を例示している。実際には他の2つの小単元についてもこのようなメモを作る。下記の「単元のまとめ」は、それらの全部を資料にして、単元全体を通した児童の学習状況を読み取り、単元の評価規準に照らして実現状況の程度を判断したものである。

本事例では、「十分満足できる(A)」状況と判断する理由を下線で示している。

1年	単元名 「あきとともだち」(20時間)	内容(5)(6)	
観 点	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
単元の評	秋の校庭や水城公園の自然、夏と	校庭や水城公園の自然物を使っ	身近な自然や友達とかかわ

価規準	の違いに関心をもち、季節に合った遊びを楽しもうとしている。	て作ったり、遊び方を工夫したりしてみんなで楽しむととに、遊びの楽しさや秋の楽しみ方を表現できる。	って遊ぶことを通してみんなで遊ぶことの楽しさや、自然や生活に見られる季節の変化に気付いている。
観点 児童	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
1	C ・自分のやりたいことがあっても友達の遊びに影響されていく。 ・季節にあった遊びを楽しもうという関心や意欲があがらない。 ・休み時間の遊びや3学期の「冬と遊ぼう」では、自発的・主体的な遊びができるよう引き続き支援していく必要がある。(指導の手だて)	B	C ・いろいろな自然物があることや、それを使った遊びの楽しさに気付いていない。 ・(教師が)一緒に遊んで会話をしたり、言動を称賛したりなどして気付くことができるようにしていく。(指導の手だて)
2	A ・自分の見つけた切り株に強い関心をもち、自発的に輪投げの活動を広げている。	A ・切り株を輪投げの棒に見立てたダイナミックな輪投げゲームを工夫して楽しんだ。	B
3	A ・最初から木となかよしになりたいという強い願いをもち繰り返しかかっている。	A ・ロープをはしごにする工夫をしたり、友達を集めてみんなとなかよく遊ぼうと進んで考えたりしている。	A ・季節による木の変化などを感性豊かに感じ取っている。
4	B ・自然とかかわることが好きで、秋探しや秋の遊びを楽しんでいる。	C ・単調な遊びが続き、遊びが広がったり深まったりしていかない。 ・単調な遊びの中からきっかけをつくったり、他の児童の遊びを紹介したりして工夫させたい。(指導の手だて)	B

例2 チェックリストで評価資料を収集し単元のまとめをする例

(1) 評価資料の収集

行動観察(行動)、児童との対話(対話)、児童同士の会話の様子や内容(会話)、作品分析(作品)などの方法で見取ったことを、「指導と評価の計画」にある「評価の視点」を使ってチェックし、「おおむね満足できる」状況を(), 「十分満足できる」状況を(), 「努力を要する」状況を()などの簡単な記号や必要なメモによって記録する。

記録に当たって、基本的には12時間を通して見ていく。ここで取り上げた「関心・意欲・態度」についても、「3指導と評価の計画」のAの で設けている4つの「評価の視点」のどこかで見ていくようにし、その全部について毎時間見ていかなければならないのではないことに留意する。そのため、「見られない(空欄)」「再度見られた()」等、「状況が変化した()」等」が読み取れるような記録の工夫が望まれる。

下記の例は、第2小単元で設けたAの の「生活への関心・意欲・態度」についての4つの「評価の視点」についてのみ紹介しているので、他の2つの観点(イの の「思考・表現」、ウの の「気付き」)についてのチェックリストが必要になる。

観 点	生活への関心・意欲・態度						
小単元	1	2			3	その他	単元の まとめ
評価 の視 点	公園の自然環境等を使って遊ぼうとしている。	公園で使う道具などの、自分に合った持ち物の準備をしている。	次の活動にやりたいことや遊びたいことがある。	みんなと一緒に遊ぼうとする。		・日常生活 ・顕著な学習状況 ・よさ ・進歩の状況 ・その他 ・単元のまとめ	秋の校庭や公園の自然，夏との違いに関心を持ち，季節に合った遊びを楽しもうとしている。
児童名							
1	・ 5分ほど鬼ごっこ。その後はブラブラ ・ 一緒に遊びをさがそう（支）		・ コマを作りたい	・ 友達に誘われてドングリ探し ・ ドングリの的当てゲーム		・ 自分のやりたいことがあっても友達の遊びに影響されていく。 ・ 季節に合った遊びへの関心や意欲があがらない。 ・ 休み時間の遊びや3学期の「冬と遊ぼう」では，自発的な遊びができるよう引き続き支援していく必要がある。（指導の手だて）	C
2	・ 切り株に強い関心			・ 切り株で楽しむ ・ 投げ方を教える		・ 自分の見つけた切り株に強い関心を持ち，自発的に輪投げの活動を広げている。	A
3	・ すぐに木登り	・ ロープがある	・ ロープの梯子	・ 木登り屋だよー		・ 最初から木となかよしになりたいという強い願いを持ち繰り返しかかっている。 ・ 日頃から花や木などの植物に関する関心が高い。	A
4	・ 木の葉や木の実で遊ぶのが好き		・ 木の葉とドングリを探す			・ 自然とかがわることが好きで，秋探しや秋の遊びを楽しんでいる。	B

(2) 単元ごとの評価のまとめ

上記に掲げたチェックリストを資料にして，（例2では「関心・意欲・態度」のみを取り上げている）単元全体を通じた児童の学習状況を読み取り，それを単元の評価規準に照らして実現状況の程度を判断し，単元の評価のまとめ（上の図の右端「単元のまとめ」の欄）とする。評価に当たっては，単元の評価規準に示された「おおむね満足できる（B）」状況を基に，「十分満足できる（A）」「努力を要する（C）」を判断する。その際，，，を点数化して集計したり，それぞれの記号の数を数えあげたりするだけの，形式的・機械的な評価に終わることのないよう留意する。

この外にも，単元における観点別評価の総括については，様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。